23.7.29

美郷にウナギ研究施設

宮崎市のNPO法人

10月池整備、廃校活用

資源保護へ育成、放流

産卵行動など謎が多いウナギの生態を研究しようと、宮崎市のNPO法人セーフティー・ライフ&リバー（大森仁史理事長）が美郷町南郷区に施設を建設することになり、28日に同法人と町の間で協定が交わされた。近年はシラスウナギの採捕量が激減し、養鰻業関係者らにとっては深刻な状況。研究施設では東京大大気海洋研究所教授らの支援を受け、自然を生かした環境下で親ウナギの育成状況を調べるとともに、放流の可能性を探って資源保護につなげたい考えだ。

同法人は「自然が豊かで、町の協力態勢もあるなどとして、場所を選定。町が確保した同区上渡川の土地（約1・8㌶）を有償で借り、10月までに三つの池を整備する。小丸川支流の渡川から水を引き、池によって生育条件を変えるなどして成長の様子をチェック。河川での生態観察が不十分な現状を踏まえ、ダムの上・下流域に分けた生育調査にも取り組む。

研究者は常駐しないが、世界的なウナギ研究の権威で、ウナギの産卵場を突き止めた同大学大気海洋研究所教授の塚本勝巳さんらが育成や観察方法などを助言するという。

今年3月いっぱいで閉校した渡川小校舎を研究室として活用する。校庭には自然と調和した庭園の整備も計画しており、観光客誘致を含めた地域振興への寄与も見込まれる。

ウナギ生態研究室として活用される旧渡川小校舎の前で会話をする大森理事長（中央）ら＝28日午後、美郷町南郷区

県によると、県内2008年度漁期のシラスウナギ採捕量は1430㌔だったが、09年度は545㌔、10年度422㌔と大幅減で、不漁は全国的な傾向。

同町北郷区の北郷林業総合センターであった協定調印式で、菊田彦市町長は「自然との共生という観点からも大事な研究。ウナギ研究の新たな一ページが開かれることに期待している」とあいさつ。大森理事長は「ウナギの資源保護につながるような研究にしたい」と述べた。